

一般社団法人日本化学連合

平成 28 年度事業報告

日本化学連合が「任意団体」から「一般社団法人」に移行してから 7 年目となり、中尾真一会長のもと、副会長、理事、監事が協力して運営にあたり、本年度の活動を展開した。

具体的には、運営委員会では化学コミュニケーション賞 2016 の実施、企画委員会では第 10 回日本化学連合シンポジウムの実施、また将来構想委員会では政策提言・情報発信推進WGの活動を行った。

1. 会員の増減

本年度当初の正会員の会員数は 16 学協会であったが、光化学協会から平成 28 年 12 月 13 日付けで、また有機合成化学協会から平成 29 年 3 月 7 日付けで、さらに日本分析化学会から平成 29 年 4 月 1 日付けで、それぞれ退会届が提出された。退会理由は、いずれも財務の見直しである。このために、本年度末の会員数は 13 学協会である。なお、賛助会員の会員数は団体 2、個人 10 であり、昨年度と同じである。

2. 日本化学連合平成 28 年度活動報告

2.1 正会員学協会会長・事務局長会

昨年度に引き続き、正会員 15 学協会（電気化学会、日本エネルギー学会、日本セラミックス協会、日本分析化学会、有機合成化学協会は欠席）の会長（代理出席を含む）と事務局長を招聘し、正会員学協会会長・事務局長会を 3 月 9 日に開催した。中尾会長から、当連合の現状についての報告があった。特に、昨年度の会長・事務局長会での要望に応じて、当連合の HP を全面的に刷新し、トップページで正会員学協会の今後および過去のイベント情報が時系列で一覧することが可能となったこと、当連合シンポジウムへの Web による申し込みが可能となったこと、さらに当連合への問い合わせフォームを備えたこと、などの説明があった。また、出席した 10 正会員学協会の会長（代理）および事務局長から、現状についての詳細な説明があった。共通して、会誌の印刷費用や配送費用の低減、論文誌の電子化、会費の値上げ、海外会員の増強、などに努めているとのことであり、活発な質疑がなされた。なお、正会員学協会の現状説明と質疑に多くの時間を費やしたことから、当初に予定していた当連合へのご意見やご要望をお聴きすることは次回にまわすことになった。

2.2 化学コミュニケーション賞 2016

当連合の設立趣旨の一つである「化学関係団体が賛同して開催する事業」を強化・発展させるために、化学と化学技術に関する啓発活動や情報発信を行うことによって、化学教育、化学産業の育成、および発展に貢献した個人ならびに団体を表彰する制度を、平成 23 年（2011 年）度に「化学コミュニケーション賞」として創設した。本年度（平成 28 年（2016 年）度）も、理事（運営委員会委員）を中心として「化学コミュニケーション賞 2016」の企画を実施した。

[運営委員会]

委員長	村松 淳司	(代表理事 副会長)
副委員長	関根 泰	(理事 石油学会)
委員	上村 大輔	(理事 日本化学会)
委員	里川 重夫	(理事 ゼオライト学会)
委員	五十嵐 哲	(常務理事)
オブザーバー	中尾 真一	(代表理事 会長)

本年度の「化学コミュニケーション賞 2016」は、当連合の主催、(株)化学工業日報社、(一社)

化学情報協会、(一社)日本サイエンスコミュニケーション協会の共催、(国研)科学技術振興機構の後援により、2016年11月1日に募集を開始し、2017年1月10日に締め切ったが、個人7件、団体8件、計15件の応募があった。

[化学コミュニケーション賞 2016 賞選考委員会]

委員長	村松 淳司	(東北大学 多元物質科学研究所 教授)
委員	五十嵐 哲	(日本化学連合 常務理事)
委員	一井 朗	((一社)化学情報協会 企画管理室長)
委員	内田 麻理香	(著述家・サイエンスライター)
委員	岡野 知道	(ライオン(株) 研究開発本部長)
委員	佐藤 健太郎	(サイエンスライター)
委員	里川 重夫	(成蹊大学 理工学部 教授)
委員	関根 泰	(早稲田大学 先進理工学部 教授)
委員	安永 俊一	((株)化学工業日報社 取締役 経営計画室長兼企画事業本部長)
委員	渡辺 政隆	(日本サイエンスコミュニケーション協会 会長 / 筑波大学 教授)

これらの応募案件について、上記の選考委員が書面審査を行ったうえ、2017年2月2日に開催した最終選考委員会で、化学コミュニケーション賞3件(団体3件)および審査員特別賞1件を下記の通り選定した。

化学コミュニケーション賞(団体)

受賞者: C5ケミカル新技術研究会

業績の表題: 触媒反応を使う樹脂成形の家族向け体験実験

化学コミュニケーション賞(団体)

受賞者: 一般社団法人 ディレクトフォース 理科実験グループ

業績の表題: 子供たちに化学の楽しさを伝える理科実験活動

化学コミュニケーション賞(団体)

受賞者: 塩ビ工業・環境協会

業績の表題: 塩ビデザインコンテスト

審査員特別賞(個人)

受賞者: 小島 昭氏(群馬工業高等専門学校 名誉教授)

業績の表題: 何でどうして体験型化学マジックの展開

表彰式は、3月10日に開催された第10回日本化学連合シンポジウム「化学でできる創・蓄・省エネルギー」(化学会館7Fホール、13:00~18:00)の席上にて執り行われた。

2.3 第10回日本化学連合シンポジウム

本シンポジウムは企画委員会が担当し、「化学でできる創・蓄・省エネルギー」を主題として、将来のエネルギーキャリアー、新しい蓄電池・キャパシターなどの蓄電デバイス、身近なエネルギーを獲得利用するエネルギーハーベスティングなどの分野横断型の最新の話題を、最先端の産学の研究・技術者にご紹介いただいた。

[企画委員会]

委員長	渡邊 正義	(代表理事 副会長)
副委員長	荻野 賢司	(理事 繊維学会)
委員	跡部 真人	(一 横浜国立大学)
委員	斉藤 美佳子	(理事 電気化学会)

委員 山中 一郎 (理事 触媒学会)
オブザーバー 中尾 真一 (代表理事 会長)
オブザーバー 五十嵐 哲 (常務理事)

第10回日本化学連合シンポジウム

化学コミュニケーション賞2016表彰式

日時 2017年3月10日(金) 13:00 - 19:40

会場 化学会館7階 ホール

主催 (一社)日本化学連合

共催 (株)化学工業日報社、(一社)化学情報協会
(一社)日本サイエンスコミュニケーション協会

後援 (国研)科学技術振興機構

開会挨拶 中尾 真一 (日本化学連合 会長) <13:00 - 13:05>
第1部 化学コミュニケーション賞2016表彰式 <13:05 - 13:55>
《司会 里川 重夫 (日本化学連合 理事)》

選考委員長挨拶・選考結果説明

村松 淳司 (日本化学連合 副会長・化学コミュニケーション賞選考委員長)

授与式

業績紹介

① 触媒反応を使う樹脂成形の家族向け体験実験

(C5ケミカル新技術研究会) 押木 俊之

② 子供たちに化学の楽しさを伝える理科実験活動

(一般社団法人 ディレクトフォース 理科実験グループ) 神永 剛

③ 塩ビデザインコンテスト

(塩ビ工業・環境協会) 関 成孝

第2部 第10回日本化学連合シンポジウム <14:05 - 18:00>
「化学のできる創・蓄・省エネルギー」

シンポジウム開会の辞 渡邊 正義 (日本化学連合 副会長・企画委員会委員長)

「化学のできる創エネルギー1」 座長 山中 一郎 (東京工業大学)

「水素エネルギーの大規模貯蔵輸送技術と展望」 岡田 佳巳 (千代田化工建設)

「化学のできる創エネルギー2」 座長 斉藤 美佳子 (東京農工大学)

「印刷型バイオ燃料電池によるエネルギーハーベスティングとウェアラブルデバイスへの応用」
四反田 功 (東京理科大学)

「化学のできる蓄エネルギー1」 座長 跡部 真人 (横浜国立大学)

「有機レドックス化学による新しい蓄電池をめざして」 吉田 潤一 (京都大学)

「化学のできる蓄エネルギー2」 座長 荻野 賢司 (東京農工大学)

「高速蓄電デバイス：次世代大容量ハイブリッドキャパシタの最前線」 直井 勝彦 (東京農工大学)

「化学のできる省エネルギー」 座長 渡邊 正義 (横浜国立大学)

「IoTセンサのためのポリマーエレクトレットを用いたエネルギーハーベスティング」
鈴木 雄二 (東京大学)

シンポジウム閉会の辞 渡邊 正義 (日本化学連合 副会長・企画委員会委員長)

閉会挨拶 岩澤 康裕 (日本化学連合 副会長)

第3部 交流会 (化学会館隣の「トラットリア レモン」) <18:10 - 19:40>

シンポジウムの参加者は一般参加者 22 名、招待参加者 3 名、講師 5 名、化学連合役員 16 名、計 46 名、および交流会の参加者は 24 名であり、盛況であった。

3. 会計

収入については、正会員からの会費収入は 4,260,400 円であったが、昨年度に続いて日本分析化学会の会費 (222,460 円) が未納である。また、賛助会員からの会費収入は 41 万円であった。さらに、本年度も (株) 化学工業日報社および (一社) 化学情報協会より、本連合主催事業「化学コミュニケーション賞 2016」の活動に対して共催金として 100 万円 (各@50 万円) の補助を受けた。

支出については、事業費合計は会議費の減少により約 35 万円の黒字となり、管理費合計は当期の収支差額が赤字になることを避けるために人件費の予算額を昨年度の 360 万円から本年度は 300 万円に削減したが、昨年 3 月に事務職員が退職し、その補充ができていないことを主な理由として約 73 万円の黒字となった。結局、次期繰越金は約 112 万円を積み増して約 480 万円となった。

4. 学協会の活動の連携業務開拓の継続

他学協会と連携したシンポジウムを平成 19 年度より継続している。平成 28 年度は以下の企画が実施された。

4.1 平成28年8月5日 (金)、高分子学会グリーンケミストリー研究会主催の第5回高分子学会グリーンケミストリー研究会シンポジウムに本連合として協賛を行った。

4.2 平成29年3月6日 (月)、化学工学会第82年会 (芝浦工大 豊洲キャンパス) において、同学会との共催で「化学工学会の見える化と化学コミュニケーション」なるセッションを実施した。

5. 将来構想委員会

将来構想委員会は、当連合が正会員学協会の連合体であることから、個々の学協会の活動と同じことをすることなく、学協会が求める当連合の活動の在り方と将来構想を提案することを目的としているが、本年度はそのための叩き台を政策提言・情報発信推進 WG で作成した。

[将来構想委員会]

委員長	岩澤 康裕	(代表理事 副会長)
副委員長	横山 祐作	(理事 日本薬学会)
委員	阿尻 雅文	(理事 化学工学会)
委員	大塚 浩二	(理事 クロマトグラフィー科学会)
委員	黒田 一幸	(理事 日本セラミックス協会)
委員	須貝 威	(理事 有機合成化学協会：有機合成化学協会が退会のために、本年度 3 月に退任)
委員	鈴木 慎一	(理事 日本化学会)
委員	長谷部伸治	(理事 京都大学)
委員	平田 岳史	(理事 日本地球化学会)
委員	吉江 尚子	(理事 高分子学会)
委員	横山 祐作	(理事 日本薬学会)
委員	渡邊 正義	(理事 高分子学会)
委員	五十嵐 哲	(常務理事)
オブザーバー	中尾 真一	(代表理事 会長)

5.1 政策提言・情報発信推進WG

岩澤将来構想委員会委員長を中心に、活動を行っている。

	[政策提言・情報発信推進WG]
委員長	岩澤 康裕 (代表理事 副会長)
委員	阿尻 雅文 (理事 化学工学会)
	黒田 一幸 (理事 日本セラミックス協会)
	須貝 威 (理事 有機合成化学協会：有機合成化学協会が退会のために、平成29年3月に退任)
	鈴木 慎一 (理事 日本化学会)
	関根 泰 (理事 石油学会)
	横山 祐作 (理事 日本薬学会)
	吉江 尚子 (理事 高分子学会：須貝 威理事の後任)
オブザーバー	中尾 真一 (代表理事 会長)
オブザーバー	五十嵐 哲 (常務理事)

6. 情報発信

当連合のHPを全面的に刷新し、トップページに正会員学協会の今後および過去のイベント行事を時系列で掲載するとともに、「化学コミュニケーション賞2016」受賞者の決定などのニュースは、その都度トップページの最上面に掲載している。

7. 処務の概要

7.1 社員総会	1回
理事会	4回
7.2 理事 19名、監事 2名	
7.3 委員会など	
運営委員会	2回
企画委員会	1回 (シンポジウムの企画についてのメール討議)
将来構想委員会	1回 (第3回政策提言・情報発信推進WGの決定事項についてのメール審議)
政策提言・情報発信推進WG	2回
化学コミュニケーション賞最終選考委員会	1回
正会員学協会会長・事務局長会	1回
監査会	1回
顧問会	1回

以上